

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270400817		
法人名	有限会社 季節の花		
事業所名	グループホーム いさはや ユニット1		
所在地	長崎県諫早市福田町1673-8		
自己評価作成日	平成28年1月5日	評価結果市町村受理日	平成28年4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	平成28年2月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山小屋風の木造作りで庭が広く、花壇の世話や畑の野菜の収穫、夏は花火大会、冬は餅つきを楽しんでいる。地域の行事にも参加させて頂きながら、交流を深めている。季節を感じて頂くために、ドライブに出掛けたり、市内最大のお祭りである「のんご祭り」に参加する等して、喜びのある日々を過ごして頂けるように支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「自然の風・光・色を感じられる地域・環境のなかで仲間とのんびり暮らせるグループホーム」という理念実行に向け、今年は「入居者全員に声かけをしよう」をモットーとしている。職員は、利用者の不安や混乱を防ぐ為に、ケアの統一を図っている。個別ケアでは、利用者が自分らしく生き活きと暮らせるような視点で検討し、ケアプラン導入シートや支援経過チェック表等を通して、プランの実践状況把握し、振り返りよう取り組んでいる。運営推進会議、リスクマネジメント研修等、外部からの情報や意見をホームのサービス向上に活かしている。地域とは、もやい法事や地域清掃の他日頃から互いに気がける関係であり、開設から11年間に積み上げてきた地域交流の実績は、ホームの財産といえる。「のんご祭り」参加など、まさに住み慣れた地域で、その人らしく暮らすことの出来るホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議など機会があるごとに全職員が共有し、実践につながるよう働きかけている。	い・さ・は・やから始まる4つのキーワードを含む理念は、ホーム内の目に留まる箇所に掲示している。特に、職員は理念の中にある「いつまでも自分らしくいきいきと暮らしていただく環境づくり」に心がけている。また、今年のコットー「入居者全員に声かけをしよう」と決め、実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町費を払い、自治会の一員として回覧板を隣宅へ入居者と一緒を持って行っている。お米は地域の方から購入し、野菜など地域の方から頂く事がある。	自治会に加入し、地域の連絡網にも入っており、利用者と一緒に回覧板を届けたり、職員はもやい法事や総会、地域清掃に参加している。近隣住民から野菜や花を届けてもらったり、地域のイベントに参加したり、ホームの夏祭りに来てもらうなど日常的に双方向の交流があることが確認できる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームで行う行事などの案内を配り、参加して頂くことがある。また、毎年春にあるお花見に招待して頂き、入居者・スタッフが参加させて頂いている。年2回の避難訓練には、近隣の方にも参加して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度実施している。各々の立場から意見交換し、情報を共有する良い機会になっている。	年6回規程メンバーで開催している。会議では利用状況や活動報告、意見や情報交換を行っている。毎回、会議前にホーム内研修としてリスクマネジメントセミナーを実施し、事例を基に説明している。参加メンバーからの意見やアドバイスを職員会議等で検討し、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホーム連絡協議会の研修で講演をして頂いたり、交流会・意見交換会でも相談に乗って頂いている。運営推進会議では、お忙しい中出席して頂き指導や情報交換を行っている。	介護保険の諸手続きや書類、住所変更等各担当課に出向いており、日頃から協力関係を築いている。毎月さわやか介護相談員の訪問があり、利用者の話を聞いたり、相談に乗っており、記録簿を通してホームは意見交換を行っている。その中から利用者への支援の見直しに繋げている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束をしないホームとして頑張ってきたが、骨折の既往歴がある入居者様が、ベッドから単独で降りられるので、ベッド柵を設置している。また、車道に面した出入口は安全面から、ドアセンサーを取り付けている。	委員会を立ち上げており、拘束しないケアに努めている。安全対策として、センサーマットの使用が見られた。リスクマネジメントセミナーでは、ホームの状況をオープンにし、アドバイスをもらい改善に向けて取り組んでいる。また、個別ケアのマニュアルを作成し、支援に役立てている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や勉強会に参加し、それを会議で全スタッフが知識を共有し虐待防止に努めている。毎日の介護の中で、虐待にあたる行為がなかったか全スタッフがお互いに注意し合える雰囲気を作れるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の権利を守る為、関係者と話し合いながら、制度を理解し活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	代表者や管理者が重要事項や契約内容を十分に説明し、理解して納得して頂いた上で、契約や解約をして頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行政の相談窓口は入居時に説明し、ホーム内にも掲示している。玄関に意見箱を設置しているが、意見は入っていない。	契約時に、相談窓口について重要事項説明書にて説明しており、玄関に意見箱を設置している。家族訪問時には声を掛け、要望等を聞き取っている。遠方などの場合は、電話で聞いている。表出があれば職員会議で職員に周知し、検討している。ホーム便りを通じて利用者の状況報告を行っているが、運営に関して表す機会がない。	個人支援の意見相談に留まらず、多くの提案を聞く機会づくりのために、家族にホームの運営や取組み状況を知ってもらおう工夫を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1～2回会議を行い、必要時には随時話し合いの場を作り、提案や意見交換を行い反映出来る様にしている。毎月、代表者へ気付いた点・提案を記入して会議にて話し合うようにしている。	日頃から話しやすい雰囲気であり、月2回の職員会議や日々の申し送りなどで、職員は意見や提案を行っている。職員から支援方法の提案があれば、まずは実践している。個別記録の記入方法など実践した事例もある。希望のシフトや資格取得時の勤務体制、物品購入など状況に応じ対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に関しては、勤務時間に配慮し、資格手当を付与している。職員及び家族の環境を考慮し働きやすい条件を支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	随時スタッフ会議で、ケアに対する問題点など改善しながら実施出来るよう指導している。外部の研修は、出来る限り交代で参加できるよう勤務体制を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の会合や研修等で同業者と交流する機会が多い。近隣のグループホームの訪問もお互いに行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼関係を築くと共に、御本人の言葉に耳を傾け、御本人の生活歴や心身の情報など分かる事から記録に残し、全職員が情報を共有出来る様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族の心配事や不安・困っている事・要望等じっくり耳を傾けるようにし、記録に残して全職員が情報を共有し、出来るだけ期待に沿うように努力している。その後も問題が生じた時は、連絡を密に行い一緒に解決出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人にとって、一番必要な支援が何であるかを良く見極めてから、サービス利用を家族と良く話し合っ、検討していくようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と買い物や食事作り、後片づけ、掃除、洗濯物干し、たたみ、畑や花壇の世話等一緒に行っており、毎日の生活の中で何か小さな事でも楽しみを持って生活して頂けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来訪された際には、本人の日頃の様子を報告したり、相談に乗っている。面会の少ない家族には、広報誌を郵送したり、電話を入れて状況を知らせる様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との外出・外泊など自由にされている。電話や面会もいつでも出来る体制をとっている。	利用者の生活歴等は、家族や本人の会話の中から収集しており、職員間で情報を共有している。家族や知人の訪問は自由であり、外食や理美容院に出掛けたり、外泊する利用者もいる。年賀状を書く練習をして家族に送ったり、電話を掛けるなど、家族との関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	些細なことでの小競り合いもあるが、職員が間に入ってその場を取り持ち、他のユニットを訪問したり、ドライブや散歩などに誘うなどして、お互いの関係を保てるように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関へ入院のまま退去に至った入居者様には、職員が交代でお見舞いに行ったり、亡くなられた時には、お通夜や葬儀に参列している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で、言葉かけや表情を読み取りながら、意向の把握に努めている。困難な場合には、ケア会議を行い毎日の介護の中で気付いたら、申し送りや申し送りノートで情報を共有している。	利用者と会話をする時間を設けるのではなく、家事を手伝ってもらっている時や、食事の時など自然な形で会話している。特に入浴時や就寝前など寛いでいる時に、思いを聞くことがある。会話が困難な場合も、声掛けして表情などで推し測っている。得た情報は個人記録に記録し、ケア会議にて職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族様より生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境の情報を頂いている。入居後の生活の中で、本人との何気ない会話の中から言葉を拾い、センター方式の記録に残し、情報を全職員で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りを1日3回必ず行き、一人ひとりの1日の過ごし方等把握し、対応している。介護記録・特記事項のほか、受診ノート・申し送りノートに記入し情報を全職員で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	出来る限り本人にも要望を聞き、家族と話し合いケアカンファレンスにて、職員のケアプランに関する達成感・問題点の意見を聴き、把握しながら作成している。	ケアプランは、ケアカンファレンスや職員会議で各担当職員の意見を聞き、本人・家族の要望を取り入れ、計画担当者が作成している。長期6ヶ月短期3ヶ月の見直しを行っている。前回の気づきから、支援経過表のチェック法を決め、職員間の支援の統一とプランの見直しに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援経過表を作成し、毎日チェック出来る様になっている。特記事項を広くとり、入居者様の情報を共有出来る様にして、実施やケアプランの見直しに生かせる様に努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの入居者様の担当職員を決め、個々の願いを達成できる事を目標に、計画・実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、入居者様と一緒に散歩へ出掛けるなどして、地域の方と会えば会話などしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望にてかかりつけ医を決め、定期的に受診し家族に報告している。他の病院を受診する時は、必ず家族に報告し了承を得る様にしてしている。	これまでのかかりつけ医を継続している。定期受診は職員が受診を支援しており、その他の受診は家族が同行している。受診結果に変化があった場合は家族と連絡し合っている。ホーム内では訪問看護ノートにて情報を共有している。緊急時は訪問看護ステーションから指示を仰ぎ、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護より健康チェックに来て頂き、気軽に相談できる関係である。24時間体制なので入居者様の状態に変化があった場合、適切な助言と医療関係者との連絡・受診をスムーズに行う事が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診や研修・交流などで顔を合わせる機会が多く、普段から相談させて頂いている。一人ひとりの入居者様の状態により、治療方針や退院に向けての支援計画など話し合う事により、本グループホームへ復帰できた入居者様も多い。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	訪問看護を契約する事にあたり、家族に説明を行った。入居時にも家族に説明しているが、重度化した場合、現実として病院への転院をするまでには、家族の気持ちもあり難しい問題になっている。	ホームはこれまで口頭で説明を行っていたが、重度化した場合の指針を作成し、利用開始前に説明を行い、同意を得ている。家族の協力なしにはホームでの看取りは行えない為、段階に応じて、家族、主治医、訪問看護ステーションと話し合い、ホーム全体で支援に取り組むこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習の研修を全職員が受け、資格を取得している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年2回、消防署員立ち合いの下避難訓練を行っている。勤務に入る前には入居者様の人員把握をしている。また、夜勤に入る前には頭の中で緊急時のシュミレーションを行うようにしている。ホーム内の居室などの配置図を訓練の都度、消防署へ提出している。	年2回消防署立会いの下、夜間想定で通報・避難・水消火訓練を行っている。訓練には利用者と同近隣住民も参加しており、訓練後には消防署員からの指導を受けている。非常持ち出し品については、食料等確保しており、利用者の情報等はホーム所定箇所と本社に保管している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入る際は、ノックや声掛けをするようにしている。排泄・入浴・更衣・軟膏塗布などの場合、カーテンを閉めたり居室で行うなど、プライバシーやプライドを傷つけないように、言葉掛けや対応を工夫して行っている。	職員は、トイレ誘導時の言葉や汚物処理の方法等、利用者の羞恥心に配慮して行動している。パッド類の収納方法も注意を払っている。リスクマネージメントの研修を毎月受講することで、職員の意識も高まっている。職員の守秘義務も周知徹底しており、書類は事務所で管理し、個人情報使用に関する同意書も得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起床・就寝時間は、本人の意思に沿って支援している。日常生活の中で自己決定が出来るよう声掛けを工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	要望がある時は、なるべく添えるように対応している。一人ひとりのペースを大切にして、業務優先にならないように常に会議などで話し合い、努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様一人ひとりに合った、支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段から入居者様と一緒に、野菜の皮むき・配膳・後片付け等手伝って頂くようにしている。その際は、衛生面・安全面に十分に配慮して行うようにしている。	食事・衛生委員会が中心となり、献立を作成している。献立には、旬や地元の食材を使用し、利用者の嗜好も取り入れている。畑で芋収穫、栗拾いなど食材に触れ、下準備をすることで食べることへの興味を持つよう工夫している。季節行事に合わせた献立や誕生日会では希望のメニューなど、食を楽しむ多くの機会がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食べる量も異なるので、その方にあった質・量で提供している。また水分摂取は工夫しており、夏場は特に多めに摂取出来る様に心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者様一人一人に合わせて歯磨き・うがいを行っている。仕上げ磨きが必要な入居者様はスタッフが行っている。定期的に歯科受診・往診を行い、口腔内の清掃・点検を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、時間おきのトイレ誘導を行っている。また自立している方で、リハビリパンツなどを使用している場合には、さりげなく声掛けを行い、交換を行っている。	排泄チェック表を基に排泄状況を把握し、介助方法を検討している。現状を維持できるよう状況に応じ、パッド類を検討している。利用者が心地よく排泄し、不安がないように努め、トイレでの排泄支援を実践している。仕草を見たり、時間で声を掛けて誘導している。自立の場合は、さりげなく状況を尋ねている。同性介助の対応もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	果物(リンゴ・バナナ)や野菜、ヨーグルト等を多めに取り入れた料理を提供したり、体操や散歩などで体を動かして頂いている。個々に応じた便秘薬等を医師・訪問看護師と相談の上調整し、無理なく排便コントロールが出来ている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の入浴のタイミングもあるので、個々に応じた声掛けの工夫をしているが、職員の配置午前中を中心に入浴を利用して頂いている。	日曜日以外、日中に入浴できるよう準備している。拒否時は強制せず、時間や声掛けを変えるなど工夫している。希望があれば同性介助もある。車椅子で湯船に入れられない場合、シャワー浴や足浴でしっかり温まるよう支援している。柚子湯など季節感を味わい、入浴を楽しめるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり自由に休息したり眠って頂いているが、自力で居室に戻ることが出来ない入居者様には、御本人の訴えや体調、時間をみてご本人の希望を聞いて居室へ誘導して休んで頂く。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院や薬局から貰った処方薬の説明書を、個別日誌に綴っており、職員全員が目を通すようにしている。また、内服薬等が変更になった場合は個別日誌や申し送りノート・薬保管場所にもその旨を記載している。訪問看護とも情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり出来る限り対応し、ドライブや買い物・散歩など支援している。また、担当職員と1対1で入居者様のやりたい事をして頂けるように、時間を確保している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	衣料品店・散歩・ドライブ・公園・美容院等、積極的に誘っている。	天候や利用者の体調に配慮しながら、外出を支援している。庭や周辺、近所の神社等、利用者の様子を見ながら行き先を決めている。気分転換にドライブに行くこともある。車椅子利用者も同様に外出している。花見や地域行事見物、のんご参加など大人数で外出する機会を設け、普段と違う外出を利用者も楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金を所持している入居者様はおられず、事務所にて保管し、買い物へ出掛けた際は、好きな物を購入して頂いている。入居者間の金銭トラブルがある為、基本的にはグループホームの立替をお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの贈り物が届いた時はお礼や、入居者様からの要求があった時は電話をして頂いている。また、年賀状を入居者様と一緒に書きご家族様へ出すようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や小物を飾り、楽しい雰囲気を出している。また、リビング内にはよく光が入り、カーテンなどで調整している。	山小屋風の本造の建物で、リビングは天井が高く、採光が良く明るく温かい空間となっている。花や季節の置物を飾り、1階のウッドデッキや庭の花壇から季節を感じる事ができる。利用者は思い思いにソファでゆったりと過ごしている。加湿器を設置し、次亜塩素酸水で手摺を拭くなど健康管理に努め、居心地のよい空間を提供している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様自身に座る位置を決めて頂き、自由に寛いだり、それぞれ自分の気の合う入居者様同士が過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた筆筒などを持ってきて頂き、出来るだけ心が落ち着くように配慮している。	使い慣れた物や好みの物の持ち込みは自由であり、ベッドや家具等は利用者の動線に合わせ配している。壁には誕生日毎に送られた寄せ書きを飾り、ホームでの生活の歴史が感じられる。家族手製のベッドの手摺りやポータブルトイレのカバー等工夫している。掃除は毎日職員が行っているが、臭気がある箇所があった。	利用者が居心地よく過ごせるよう、換気の工夫が望まれる。また、防火対策としてもコンセント口の掃除にも期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	便所・浴室・プライバシーが守られる範囲での自室の張り紙や矢印、時計、カレンダーをいつも目に入る所に設置している。1階のスロープは体力作りに活かしており、2階の入居者様には階段を使用している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270400817		
法人名	有限会社 季節の花		
事業所名	グループホームいさはや ユニット2		
所在地	長崎県諫早市福田町1673-8		
自己評価作成日	平成28年1月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山小屋風の温かみのある木造作りで庭が広く、家庭菜園・花壇の世話や収穫、夏は花火大会、冬は餅つきを楽しんでいる。季節を感じて頂く為に、花見やドライブに出掛けたり、市内最大のお祭りである「のんご祭り」に参加して、喜びのある日々を過ごして頂けるように支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や事務所など、皆が見えるところに貼っており、会議など機会があるごとに全職員が共有し、実践につながるように働きかけている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町費を払い、自治会の一員として行事の連絡網、回覧板は入居者と一緒に行っている。お米は地域から購入し、新米をすぐ食べる事ができ、野菜や花など地域の方から頂くことがある。公民館や神社・道掃除にも職員が参加している。年2回の避難訓練に近		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームで行う行事に参加して頂くことがある。また、毎年春にある花見に招待して頂き、入居者やスタッフが参加させて頂いている。2月の「もやい法事」にもスタッフが参加し公民館での炊き出しを地域の方と行い、郷土料理の作り方を教えて頂いたり認知症		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回実施しており、各々の立場から意見交換をし、情報を共有する良い機会であり、また他施設の会議に出席することにより、悩みを共有したり参加させて頂いたり大変勉強になり、サービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム協議会などの研修で講演して頂くこともあるが、何かあった時は電話や窓口又は、訪問をして頂いており、相談に乗って頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	目の届かない裏口はセンサーを設置しているが玄関は鍵を掛けずに見守りで対応している。単独行動で骨折の既往歴がある入居者には離床センサーを夜間帯のみ設置している。ホーム内は夜間帯のみ施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や勉強会に参加し、それを会議やホーム内研修で全職員が共有し虐待防止に努めている。毎日の介護の中で、虐待に当たる行為がなかったか全職員お互いが注意しあえる雰囲気を作れるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の権利を守る為、関係者と話し合いながら、制度を理解し、活用出来るよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	代表者や管理者が重要事項や契約内容を十分に説明し、理解して納得して頂いた上で、契約や解約をして頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行政の相談窓口は、入居時に説明しホーム内にも掲示している。玄関に意見箱を設置しているが、意見は入っていない。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に2~3回会議を行い必要時には、随時話し合いの場を作り提案や意見交換を行い、反映出来る様にしている。毎月、代表者へ気づいた点・提案を記入して会議にて話し合うようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に関しては、勤務時間に配慮し、資格手当を付与している。職員及び家族の環境を考慮し働きやすい条件を支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	随時スタッフ会議で、ケアに対する問題点など改善しながら実施出来る様指導している。外部研修は、出来る限り交替で参加出来るよう、勤務体制を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の会合や研修などで同業者と交流する機会が多い。近隣のグループホームの訪問もお互いに行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼関係を築くと共に、御本人の言葉に耳を傾け、御本人の生活歴や心身の情報など分かる事から記録に残し、全職員が情報を共有出来る様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族の心配事や不安・困っている事・要望等じっくり耳を傾けるようにし、記録に残して全職員が情報を共有し、出来るだけ期待に沿うように努力している。その後も問題が生じたときは、連絡を密に行い一緒に解決出来る様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人にとって、一番必要な支援が何であるかを良く見極めてから、サービス利用を家族とよく話し合っ、検討していくようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と買い物や食事作り、後片付け、掃除、洗濯物干し・たたみ、畑や花壇の世話など一緒に行っており、毎日の生活の中で何か小さな事でも楽しみを持って生活をして頂けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来訪された際には、本人の日頃の様子を報告したり、相談に乗っている。面会の少ない家族には、広報誌を郵送したり、電話を入れて状況を知らせる様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との外出・外泊などは自由にされている。電話や面会もいつでも出来る体制を取っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	些細な事での小競り合いもあるが、職員が間に入って場を取り持ち他ユニットを訪問したり、ドライブや散歩に誘うなどして、お互いの関係を保てるように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関へ入院のまま退去に至った入居者様には、職員が交代でお見舞いに行ったり、亡くなられた時には、お通夜や葬儀に参列している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で、言葉掛けや表情を読み取りながら、意向の把握に努めている。困難な場合には、ケア会議を行い毎日の会議の中で気付いたら、申し送りの中で情報を共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族様より生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境の情報を頂いている。入居後の生活の中で本人との何気ない会話の中で、言葉を拾いセンター方式の記録に残し、情報を全職員で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りを1日3回必ず行い、一人ひとりの一日の過ごし方など、把握し対応している。介護記録・特記事項のほか受診ノート・申し送りノート・訪問看護には連絡帳に記入して頂き情報の共有をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	出来る限り本人にも要望を聴き、家族と話し合い、ケアカンファレンスにて、職員のケアプランに関する達成感・問題点の意見を聴き、把握しながら作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援経過表を作成し、毎日チェック出来る様にしてはいる。特記事項を広くとり、入居者様の情報を共有出来る様にして、実施やケアプランの見直しに活かせる様に努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人の担当職員を決め、個々の願いを達成できる日を目標に、実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、入居者様と一緒に散歩へ出掛けるなどして、地域の方と会えば会話等している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望にてかかりつけ医を決め、定期的に受診し、家族に報告している。他の病院を受診するときは、必ず家族に報告し了承を得る様にしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問看護に健康チェックに来て頂き、気軽に相談できる関係である。24時間体制なので入居者様の状態に変化があった場合、適切な助言と医療関係者との連絡と受診がスムーズに行く様になってきている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診や研修・交流などで顔を合わせる機会が多く、普段から相談させて頂いている。一人一人の入居者様の状態により、治療方針や退院に向けての支援計画等を話し合うことにより、本グループホームに復帰できた入居者様も多い。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	訪問看護を契約するにあたり、家族に説明を行った。入居時にも家族に説明をしているが、重度化した場合、現実として病院への転院をするまでには、家族の気持ちもあり難しい問題になっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習に研修を全職員が受け、資格取得している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年2回消防署立会いの下避難訓練を行い、近隣にも参加して頂き避難方法を共有し、協力体制を築いている。地域の公民館を避難所として地区にも認めて頂いているが、まだ活用していない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入る際は、ノックや声掛けをするようにしている。排泄・入浴・更衣・軟膏塗布などの場合、カーテンを閉めたり、居室で行うなどプライバシーやプライドを気づけないように、言葉掛けや対応を工夫して行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起床・就寝時間は、本人の意思に沿って支援している。日常生活の中で自己決定が出来る様声掛けに工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	要望がある時は、なるべく沿える様に対応している。一人ひとりのペースを大切に、業務優先にならないように常に会議などで話し合いを行い、努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	昼間はその方に合った日常着を、夜間は寝間着に毎日交換している。衣装替えをして季節に合った服を適度な枚数を着て頂き、綻び等は、入居者やスタッフが修繕している。2～3ヶ月に1回訪問美容師に髪をカットして頂いているが、家族と美容院に行く入居		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日会では、その方の好みのメニューを取り入れている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとり食べる量も異なるので、その方に合った質量・形態で提供している。一日の食事以外の水分摂取量を1300～1400ml提供するように心掛け、計算して食事量など記入し確認を取り合っている。特に夏場は、水分不足にならないように気掛けて提供するよう		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者様一人ひとりに合わせて歯磨き・うがいを行っている。仕上げ磨きが必要な入居者様はスタッフがやっている。定期的に歯科受診・往診を行い、口腔内の清掃・検診を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間おきのトイレ誘導を行っている。又、自立している方で、リハビリパンツなどを使用している場合は、さり気無く声掛けを行い、交換を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	果実(バナナ・リンゴ)や野菜、ヨーグルト等を多めに取り入れた料理を提供したり、体操や散歩などで体を動かして頂いている。個々に応じた便秘薬などを医師・訪問看護師と相談の上調整し、無理なく排便コントロールが出来ている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの入浴のタイミングもあるので、個々に応じた声掛けを工夫しているが、職員の配置上、昼間に入浴して頂いている。入居者の希望がある際は、いつでも入浴できるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり自由に休息したり眠って頂いているが、自力で居室に戻ることが出来ない入居者様には、体調や時間をみて本人の希望を聞いて居室へ誘導して休んで頂く。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から貰った処方薬の説明書を個別日誌に綴っており、職員全員が目を通すようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり出来る限り対応し、ドライブや買い物・散歩など支援している。また、担当職員と1対1で入居者のやりたい事をして頂けるように時間を確保している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・ドライブ・公園・コインランドリー・美容院など、積極的に誘っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金を所持している入居者様はおられず、事務所にてご家族より預かり、買い物に出掛けた際は、好きな物を購入して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの贈り物が届いた時はお礼の電話や、入居者様から電話の要求があった時は、電話をして頂いている。また、年賀状を入居者様と一緒に書きご家族へ出すようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や小物を飾り、楽しい雰囲気を出している。また、リビング内はよく光が入り、カーテンや簾等で調整している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様自身に座る位置を決めて頂き、自由に寛いだり、それぞれ気のあった入居者様同士が過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた筆筒などを持ってきて頂き、出来るだけ心が落ち着くように配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	便所・浴室・自室の張り紙や矢印、時計・大きいカレンダーをいつも目に入る所に設置している。体力維持の為に、2階の入居者様には、階段を使用して頂いている。		